「育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実～マトリックス表を活用した授業実践～」

〇昨年度を受けて

昨年度までは、「教科の視点を明らかにした合わせた指導における指導の在り方～マトリックスを活用した授業実践を通して～」という研究主題で研究を行ってきた。（主に生活単元学習）

昨年度まで使用していたマトリックス表は、①単元名→②単元にどの教科が含まれているかを明らかにする。という流れで作成していた。この流れでは、現在の児童生徒の姿に引っ張られて単元を構成したり、教師の得意分野や指導したいことを中心に単元を構成してしまったりする可能性が高くなる。単元名から作成する昨年度までのマトリックス表では、指導する教科に偏りがでたり、指導していない内容がでたりした。また、マトリックス表に段階・内容が示されておらず、例えば、理科Ａ物質・エネルギーの項目に印（マトリックス表では〇）が付いても、何段階の理科Ａ物質・エネルギーなのか、物質・エネルギーのどの内容なのかを把握することができなかった。 そこで本年度は、新しいマトリックス表を活用して授業実践を行うようにした。

（昨年度のマトリックス表の一部）

各教科等	評価の観点	指導内容	四季を楽しもう（Ⅰ課程）	学校行事を楽しもう（Ⅰ課程）	ビジネスマナーについて知ろう（Ⅱ	タブレットを使って調べよう（Ⅱ課	体と健康について考えよう（Ⅱ課程	公共物の利用方法を知ろう（Ⅱ課程	裁縫をしよう（Ⅱ課程）	公共交通機関の利用の仕方を学ぼう	ゴミの分別をしよう（Ⅱ課程）	選挙について知ろう（Ⅱ課程）	バランスのよい食事について考えよう（Ⅱ	都道府県について調べよう（Ⅱ課程	ＴＰＯに応じた挨拶や行動をしよう	人との付き合い方等について考えよう（Ⅲ	福祉サービス等について知ろう（Ⅲ	布を用いて制作をしよう（Ⅲ課程）	ＳＮＳ等の利用について考えよう（	政治の仕組みについて考えよう（Ⅲ	衣食住について考えよう（Ⅲ課程）	流れる水の働きと土地の変化（Ⅲ課	電気エネルギーについて考えよう（	食料生産について考えよう（Ⅲ課程	お金の管理をしよう（Ⅲ課程）	モザイク画を制作しよう（Ⅲ課程）
語	思判表	Ａ聞くこと・話すこと	○	○	○			○		○	○	○		○	○	○				○		○		○		
		Ｂ書くこと									○	○		○	○	○				○						
		Ｃ読むこと										○														
社会	知技・思判表	ア社会参加ときまり			●			○		○	○	○			●	○			○	○						
		イ公共施設の役割と制度						●		●	○	●					●			●						
		ウわが国の国土の自然環境と国民生活									○											○				
		エ産業と生活																					●	●		
		オわが国の国土の様子と国民生活、歴史												○												
		カ外国の様子																								
数学	知技・思判表	Ａ数と計算							○		○		○				○	○			○	○		○	○	
		Ｂ図形							○									○								○
		Ｃ変化と関係					○			○	○										○	○		○		
		Ｄデータの活用					○			○	○										○	○		○		
理科	知技・思判表	Ａ生命					●																			
		Ｂ地球・自然																				●				
		Ｃ物質・エネルギー																					●			
音楽	知技・思判表	Ａ表現	○	○																						
		Ｂ鑑賞	○	○																						
	知技	Ａ表現	●	●					○																	●
		Ｂ鑑賞	●	●					○																	●

小学部は生活科、中学部、高等部は社会・理科・家庭について、どの学年でどの教科のどの段階のどの内容を扱うのかを明確したマトリックス表を作成した。どの学年でどの教科のどの段階のどの内容を扱うのかを明確にすることで、教科の偏りをなくし、すべての内容を扱うことができる。このマトリックス表を基に生活単元学習の年間指導計画を作成し授業実践を行う。「合わせた指導ありきで単元を構成することで、教科の寄せ集めの授業となる場合があり、教科の視点や育成を目指す資質・能力が曖昧となるケースが見られたことから、教科の視点で合わせることが難しい場合は、無理に合わせようとせず、単独の教科の単元として指導する等の教育課程の改善を目指す必要がある。」という昨年度の課題を受け、高等部では、時間割表記は生活単元学習だが、社会、理科、家庭について教科別の指導を行う単元を年間計画に位置付けた。また、生活単元学習について、各学年実態別のグループを編成し授業を行うようにした。小学部、中学部については、従来通り学年単位の集団で生活単元学習という指導の形態で指導を行う。

（本年度のマトリックス表の一部）

		1年	2年
ア基本的な生活習慣	食事	※日生で行う	※日生で行う
	用便	※日生で行う	※日生で行う
	寝起き	※日生で行う	※日生で行う
	清潔	※日生で行う	※日生で行う
	身の回りの整理	※日生で行う	※日生で行う
	身なり	※日生で行う	※日生で行う
イ安全	危険防止		
	交通安全		
	避難訓練		
	防災		
ウ日課・予定	日課		
エ遊び	いろいろな遊び	※遊びの指導で行う	※遊びの指導で行う
	遊具の後片付け	※遊びの指導で行う	※遊びの指導で行う
オ人との関わり	自分自身と家族		
	身近な人との関わり		
	電話や来客の取次ぎ		
	気持ちを伝える応対		
カ役割	集団参加や集団内での役割		
	地域の行事への参加		
	共同での作業と役割分担		
キ手伝い・仕事	手伝い		
	整理・整頓		
	戸締り		
	掃除		
	後片付け		
ク金銭の扱い	金銭の扱い		
	買い物		
	自動販売機の利用		
ケきまり	自分の物と他人の物の区別		
	学校のきまり		
	日常のきまり		
	マナー		
コ社会の仕組みと公共施設	家族・親戚・近所の人		
	学校		
	いろいろな店		
	社会の様子		
	公共施設の利用		
	交通機関の利用		

	(イ)県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動			
カ 外国の様子	(ア)世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動			
	(イ)世界の様々な地域に関わる学習活動			

		1年	2年	3年
理科1段階				
A 生命	ア 身の回りの生物			
B 地球・自然	ア 太陽と地面の様子			
C 物質・エネルギー	ア 物と重さ			
	イ 風やゴムの力の働き			
	ウ 光や音の性質			
	エ 磁石の性質			
	オ 電気の通り道			
理科2段階				
A 生命	ア 人の体のつくりと運動			
	イ 季節と生物			
B 地球・自然	ア 雨水の行方と地面の様子			
	イ 天気の様子			
	ウ 月と星			
C 物質・エネルギー	ア 水や空気と温度			

		1年	2年	3年
家庭1段階				
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族			
	イ 家庭生活と役割			
	ウ 家庭生活における余暇			
	エ 幼児の生活と家族			
B 衣食住の生活	ア 食事の役割			
	イ 調理の基礎			
	ウ 衣服の着用と手入れ			
	エ 快適な住まい方			
C 消費生活・環境	ア 身近な消費生活			
	イ 環境に配慮した生活			
家庭2段階				
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族			
	イ 家庭生活と役割			
	ウ 家庭生活における余暇			
	エ 家族や地域の人々との関わり			
B 衣食住の生活	ア 食事の役割			
	イ 栄養を考えた食事			
	ウ 調理の基礎			
	エ 衣服の着用と手入れ			
	オ 快適で安全な住まい方			
C 消費生活・環境	ア 身近な消費生活			
	イ 環境に配慮した生活			

高等部

		1年	2年	3年
社会1段階				
ア 社会参加ときまり	(ア)社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動			
	(イ)社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動		1	
イ 公共施設の役割と制度	(ア)公共施設の役割に関わる学習活動			
	(イ)制度に関わる学習活動			
ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活	(ア)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動		5	
エ 産業と生活	(ア)我が国の農業や水産業における食料生産に関わる学習活動	1		
オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史	(ア)我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動	2		
	(イ)我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動			
カ 外国の様子	(ア)グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動	4		
社会2段階				
ア 社会生活ときまり	(ア)社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動			
	(イ)社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動			
イ 公共施設の役割と制度	(ア)公共施設の役割に関わる学習活動			
	(イ)制度に関わる学習活動			
ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活	(ア)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動			1
エ 産業と生活	(ア)我が国の工業生産に関わる学習活動			
	(イ)我が国の産業と情報との関わり関わる学習活動			4
オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史	(ア)我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動			2
	(イ)我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動			
カ 外国の様子	(ア)グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動			

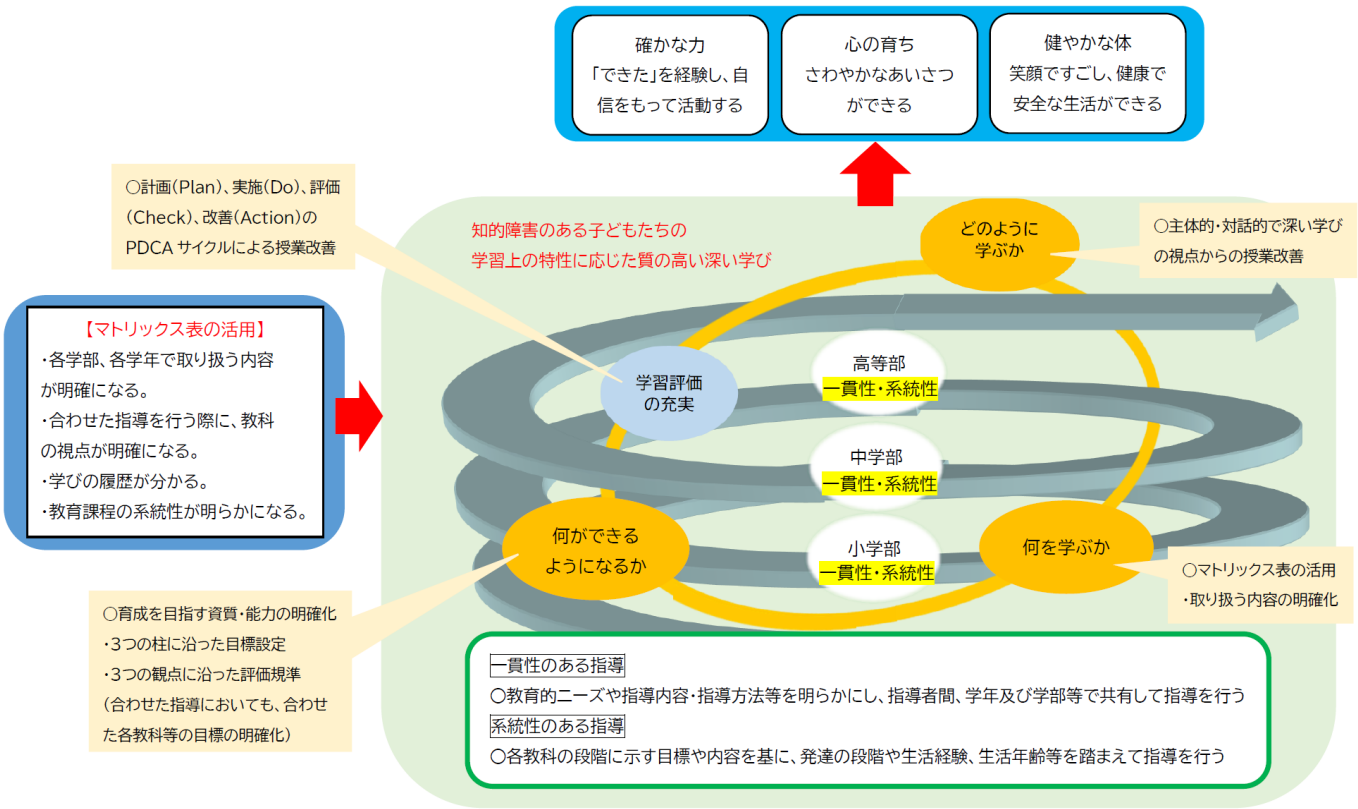
		1年	2年	3年
理科1段階				
A 生命	ア 植物の発芽、成長、結実			
	イ 動物の誕生			
B 地球・自然	ア 流れる水の働きと土地の変化			
	イ 天気の変化		5	
C 物質・エネルギー	ア 物の溶け方			
	イ 電流の働き	3		
理科2段階				
A 生命	ア 人の体のつくりと働き		2	
	イ 植物の養分と水の通り道			
	ウ 生物と環境		3	
B 地球・自然	ア 土地のつくりと変化		5	

○研究構想図について

R4年度研究構想図

研究主題

育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実
～マトリックス表を活用した授業実践～



本年度の研究主題は「育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実～マトリックス表を活用した授業実践～」

研究仮説としては、マトリックス表を活用して、緑の枠で囲った部分にある、一貫性のある指導、系統性のある指導を行う

中で、育成を目指す資質・能力を明確にし、指導を充実させることで、「知的障害のある子どもたちの学習上の特性に応じた質の高い深い学び」が実現でき、学校教育目標を達成することができるのではないかということ。

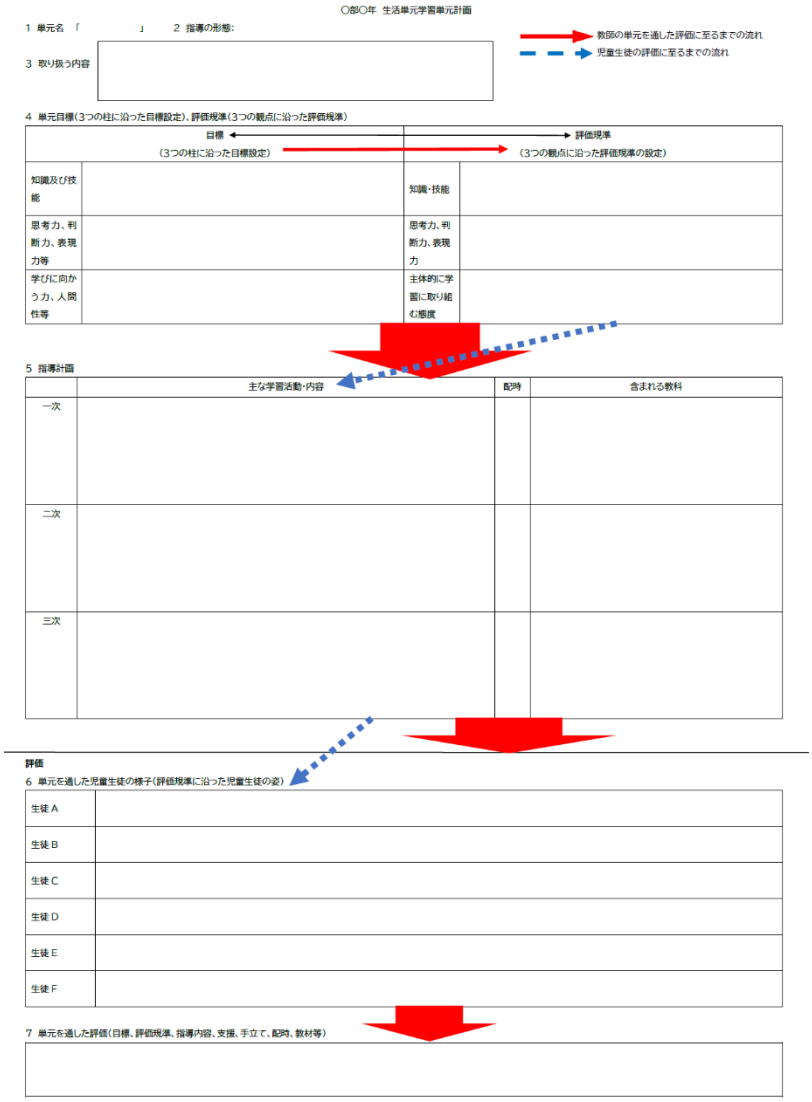
マトリックス表を活用することで、各学部、各学年で取り扱う内容が明確になる。合わせた指導を行う際に、教科の視点が明確になる。学びの履歴が分かる。教育課程の系統性が明らかになる。このマトリックス表を活用して、授業実践を行う。取り扱う内容を明確にした上で、「一貫性のある指導」「系統性のある指導」を行う中で、「何を学ぶか」で、マトリックス表を活用して、取り扱う内容の明確化、「何ができるようになるか」で、育成を目指す資質能力の明確化、3つの柱に沿った目標設定、3つの観点に沿った評価規準、「どのように学ぶか」で、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行うことで、「知的障害のある子どもたちの学習上の特性に応じた質の高い深い学び」を実現し、学校教育目標を達成していくというのを表したのが、この研究構想図になる。

「一貫性のある指導」というのが、教育的ニーズや指導内容・指導方法等を明らかにし、指導者間、学年及び学部等で共有して指導を行うこと、「系統性のある指導」というのが、各教科の段階に示す目標や内容を基に、発達の段階や生活経験、生活年齢等を踏まえて指導を行うということ。

〇研究の実際

「育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実」を図るために、本年度新たに作成した単元計画様式を活用し、授業実践を行う。各学年で１単元（小学部・中学部は生活単元学習、高等部は理科・社会・家庭・生活単元学習）について学年職員複数で単元計画を作成し、授業実践、評価を行う。また、各学部の一つの実践について、学部全員で実践のビデオを視聴し、協議会を行う。

（単元計画様式）



目標設定の例

中学部理科2段階 B 地球・自然 ア 雨水の行方と地面の様子（知識・技能のみ）

・（軽度の生徒）水のしみ込み方は、土の粒の大きさの違いによって違いがあることを理解する。

・（中度の生徒）水のしみ込み方は、土の粒の大きさの違いによって違いがあることに気付く。

・（重度の生徒）水がしみ込む様子に関心をもつ。

水のしみ込み方は、土の粒の大きさの違いによって違いがあることに関心をもつ。

上記のように実態別に目標設定をすることで、重度の生徒でも中学部理科2段階 B 地球・自然 ア 雨水の行方と地面の様子を扱えると考える。

評価規準設定の例

・（重度の生徒）水がしみ込む様子をじっと見るなど、水がしみ込む様子に関心をもっている。

粒の大きさの違いによる水のしみ込み方の違いをじっと見たり、指さしをしたりするなど、水のしみ方は、粒の大きさの違いによって違いがあることに関心をもっている。

上記のように評価規準を設定することで、重度の生徒でも中学部理科2段階 B 地球・自然 ア 雨水の行方と地面の様子について、生徒の様子や行動、表情等から評価をすることができると考える。

〇本年度の計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本年度の研究について係で確認	本年度の研究について全体に提案	単元計画の作成・実践 →	職員研修① 職員研修②		小学部授業実践・協議会 中学部授業実践・協議会	高等部授業実践・協議会		授業実践のまとめ		研究のまとめ	授業実践指導案・単元計画集の作成・配布

研究のまとめ

新学習指導要領の趣旨を踏まえ3年次研究の1年次として「育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実～マトリックス表を活用した授業実践～」をテーマに、新マトリックス表（図2）を作成し、単元計画様式（図3）を活用しながら研究を推進した。本校前校長金田孝一先生、本校教務主任本田誠三先生の講話、各学年1単元について学年職員複数で単元計画（図3）を作成し、授業実践・評価を行うことができた。また、各学部の一つの実践について、学部全員で実践のビデオを視聴し、協議会を行うことができた。協議会では学部ごとに授業実践の様子をビデオ視聴し、有効な手立て（教材、発問、支援の仕方、環境設定、授業構成等）、児童生徒がつまずいていたところ、児童生徒が教科の目標を達成できていたところ・改善すべきところ（評価規準で設定した児童生徒の姿を参考に）の3つの視点について付箋に書き出し、書き出された付箋を基に協議を行った。多くの意見や感想、助言を頂き、今後の指導に活きる実りのある協議会となった。小学部の協議会では、北九州市教育員会学校教育部特別支援教育課山崎指導主事から「各教科等を合わせた指導における授業づくり」というテーマで講話、指導助言を頂いた。

研究推進にあたっては、以下の流れで進めた。

① 新マトリックス表（図2）の作成
② 本年度の研究についての共通理解を図るための校内研修の実施
③ 7月 金田孝一先生より、「学習指導要領の理解と教育課程の改善」についての講話
7月 本田誠三先生より、「自立活動の視点を踏まえた支援の在り方」についての講話
④ 9月 小学部授業実践・協議会（生活単元学習）
9月 中学部授業実践・協議会（生活単元学習）
10月 高等部授業実践・協議会（理科）
⑤ 研究推進委員会を中心とした、協議会のアンケートの取りまとめ
⑥ 通年 単元計画（図3）の作成

（1） 本研究の成果

本研究を通して、成果と考えられるものを次の4つにまとめた。

◎成果1 教科・段階・内容の明確化、学びの履歴の見える化ができた。

小学部は生活、中学部は社会・理科・家庭分野、高等部は社会・理科・家庭について、どの学年で、どの教科の、どの段階の、どの内容を扱うのかを明確した新マトリックス表（図2）を活用し、年間指導計画を作成、実践を行うことができた。マトリックス表（図2）を作成することで、各単元において、どの教科の、どの段階の、どの内容を扱うのかが明確になるだけでなく、学びの履歴の見える化、指導内容の系統性（教育課程）を担保することができた。また、取り扱う教科の偏り、未履修をなくすことができた。

◎成果2 各単元において、育成を目指す資質・能力を明確にすることができた。

1.単元名、2.指導の形態、3.取り扱う内容、4.3つの柱に沿った目標設定、3つの観点に沿った評価規準、5.指導計画、6.単元を通した児童生徒の様子（評価規準に沿った児童生徒

の姿）、7．単元を通した評価（目標、評価規準、指導内容、支援、手立て、配時、教材等）について記入する、新たに作成した単元計画様式（図3）を活用することで、合わせて指導を行う場合でも合わせた各教科等について、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の3つの柱に沿った目標設定を行うことができ、育成を目指す資質・能力を明確にすることができた。同単元異目標で指導を行う場合においても実態別に目標を示すことで、それぞれの実態に応じた育成を目指す資質・能力を明確にすることができた。また、3つの観点に沿った評価規準を作成することで、目標を達成した姿を引き出す学習内容・活動を設定することができ、「知的障害のある子どもたちの学習上の特性に応じた質の高い深い学び」が実現できたと考える。学年職員複数で単元計画（図3）を作成することで、目標・評価規準を職員間で共有し、指導を行うことができた。

◎成果3　学習指導要領に示された各教科の目標・内容をより意識するようになった。

マトリックス表（図2）を基に年間指導計画を作成しているため、おのずと取り扱う教科の段階、内容が決まる。そのため各単元の指導を計画する際に、学習指導要領に示されている取り扱う教科の目標・内容を教員一人一人がより意識するようになった。

◎成果4　社会・理科の内容のまとまりごとの目標・評価規準設定参考資料の作成（高等部）

単元計画様式（図3）に記入された目標・評価規準を基に、高等部社会・理科について実態別（軽度、中度、重度）の内容のまとまりごとの目標・評価規準設定参考資料を作成することができた。これにより、高等部では各単元において、生徒の実態に応じた育成を目指す資質・能力を明確する際の参考にできたり、実態に応じた評価規準を設定する際の参考にしたりすることができた。

（2）　本研究の課題

本研究を通して、課題と考えられるものを次の3つにまとめた。

▲課題1　適切な目標・評価規準、指導内容の設定

目標設定や評価規準の設定に際し、軽度の児童生徒は学習指導要領に示されている各教科の目標・内容をそのまま単元の目標に設定できることが考えられる。しかし、重度の児童生徒については、どのように目標・評価規準を設定すればよいか苦慮することがあった。目標・評価規準を明確に設定できないと、学習内容・活動が児童生徒の実態に応じたものでないということになってしまう。また、単元計画（図3）「3．取り扱う内容」の項目に記載されている教科の内容についての目標が「4．単元目標」に記載されていないということがあり、「3．取り扱う内容」と「4．単元目標」との整合性がとれていないということがあった。

▲課題2　各教科等の時数の適切な配時

時間割上に示されていない、合わせた指導の形態で行っている各教科について、どのように時数を計算すればよいか学部内で統一ができていなかった。時数計算を行うことで、時数が

少ない教科が明らかになった。

▲課題3　合わせて指導を行う際の根拠の明確化

合わせて指導を行う場合、なぜこの教科と教科を合わせて指導を行っているのか、教科別の指導で行っている教科を合わせている理由等、各単元において合わせて指導を行う際の根拠が明確になっていない。合わせて指導を行うことが目的ではなく、指導の方法の1つであることを再整理する必要がある。学校教育法施行規則第130条には「特別支援学校の小学部、中学部又は高等部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。」と示されている。「特に必要があるときは・・・授業を行うことができる」と示されているため、必ずしなければいけないということではない。そのため、特に指導の効果が望める場合等、合わせて指導を行う特に必要がある根拠を明確にする必要がある。

（3） 今後の展望

来年度に向けて、マトリックス表（図2）の見直しとマトリックス表（図2）（学びの履歴）の引継ぎを行う。マトリックス表（図2）を見直し、未履修がないか確認を行い、マトリックス表（図2）（学びの履歴）を次年度に引き継ぐことで、小学部は6年間で、中学部、高等部は3年間で確実に履修ができるようにする。また、P4 の目標・評価規準の設定の例を考える根拠としながら、育成を目指す資質・能力に向かう適切な目標・評価規準の設定についても検討を続けていきたい。

本年度の実践を受けて、教科別で指導を行う方が効果的か、合わせて指導を行う方が効果的か、学年全員で指導を行う方が効果的か、実態別グループで指導を行う方が効果的か、育成を目指す資質・能力に照らして指導の形態、授業の形態の検討を行ことで、育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実が図られるようにする。その際、合わせて指導を行う場合は、各単元において合わせて指導を行う指導の効果等の根拠を明確にしていきたい。また、各教科等の適切な時数の配時についても見直していきたい。

3か年の研究を通して、「育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実」を図り、各学部においてよりよい教育課程の改善を図っていきたい。